

# 須崎港

## 高知県土木部港湾・海岸課

〒780-8570 高知市丸の内1-2-20

☎088-823-9883

URL : <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/175001>



## 1. 概況

### 〈沿革及び現況〉

須崎港は高知市の西方約30km、土佐湾のほぼ中央に位置し、西に角谷岬、東に山崎鼻を控えた須崎湾の中にある非常に静穏な港であり、高知県中西部における政治、経済、文化の中心都市である須崎市をはじめ、背後の高幡広域生活圏の海の玄関として、また高知県の中核港湾の一つとして発展した港湾である。

本港は明治40年に組合組織による浮棧橋が設置されたのが港湾施設としての第一歩であり、その後大正8年からT型棧橋等の整備が進められた。昭和10年には箕越地区に石灰石貯留タンク、昭和14年には大峰地区に臨港鉄道が敷設され、背後の地場資源である石灰石の積出しが本格的に行われるようになった。

昭和36年からは大峰地区に1万D/W級岸壁の整備を行い、その背後にはセメント工場が立地した。これに並行して港町地区には500D/W～2,000D/W級の岸壁も整備され、昭和40年には重要港湾に昇格、その後昭和44年には開港指定がなされた。

昭和47年には重要港湾としての新たな港湾計画を策定し、これに基づき15,000D/W級岸壁や湾口部の石灰石積出専用棧橋が整備され、高知県における中核港湾として重要な位置を占めるに至った。

本港は現在、石灰石、セメント等の臨海部立地企業の生産活動を支え、高知県全体の港湾取扱貨物量の約半分を占める県下最大の貿易港として大きな役割を果たしており、平成30年の港湾取扱貨物量は1,773万トンに達している。

また、近年は四国横断自動車道等の広域交通体系の整備を背景として、高知中央、幡多広域生活圏との連携により、瀬戸内地域との結びつきを強め、一体的な発展を実現していく「高幡広域生活圏」を背後地域とする流通港湾として、産業の拡充・振興や他の交通体系の整備に伴った港湾機能の充実が望まれている。

一方、本港は、リアス式海岸に開けた天然の良港であるがゆえに、外洋からの津波に対して極めて弱く、過去幾たびも津波による被害を蒙り、近年では昭和21年の南海沖地震津波、昭和35年のチリ地震津波により甚大な被害を受けている。このため平成25年度には湾口地区の津波防波堤が完成し、現在、粘り強い化の改良を実施している。

### 〈計画〉

須崎港は、今後も石灰石の輸出港として、またセメントの積出港として、さらにはニュージーランドからの原木輸入とその加工を行う木材港として、物流と防災機能を併せ持つ拠点港湾として地域の持続的な発展に寄与することが強く望まれる。こうしたことを背景に、平成30年に改訂を行った須崎港港湾計画では、

1. 物流「産業振興に資する物流機能の充実」
  - ①産業振興に資する国際物流ターミナル機能の強化
  - ②戦略的ストックマネジメントの推進
2. 防災「住民・港湾を守る防災機能の充実」
  - ③地震・津波に対する防災・減災機能の強化
  - ④大規模災害からの早期復旧・復興に向けた港湾機能の強化
3. 交流「住民・来訪者が楽しめる交流機能の充実」
  - ⑤にぎわいのある港づくり

を須崎港が目標とすべき将来像として掲げ、目標年次を令和10年代前半としている。